

自己評価報告書

世田谷区立二子玉川小学校
校長 小 宮 豊

I 本校の目標及び計画

1 教育目標

人権尊重の精神を基調として、心身ともに健やかで、知性・感性に富み、社会の発展の貢献できる人間性豊かな児童を育成するため、次の児童像を教育目標とする。

強いからだで がんばる子
進んで考え くふうする子
思いやりがあり 助け合う子（重点目標）

2 教育目標達成のための基本方針

- (1) 人権尊重の教育を推進する。
- (2) 地域とともに歩む教育を展開する。
- (3) 国際理解教育を推進する。
- (4) 生涯学習の基礎を養う。
- (5) 学力向上を図り、個を生かす教育を推進する。
- (6) 環境教育を推進する。
- (7) 健康・安全教育を推進する。
- (8) 言語環境を整える。

3 教育ビジョン推進の重点

- (1) 地域とともに子どもを育てる教育
- (2) 未来を担う子どもを育てる教育
- (3) 信頼と誇りのもてる学校づくり

II 学校の概要

1 校長名 小宮 豊

2 学級数 17学級

3 児童数 569名（平成22年3月1日現在）

4 学校の特色（本校の特色ある教育活動）

(1) 創意ある教育活動

- ① 愛鳥モデル校としての愛鳥活動を推進することによって、自然を愛する心を育て、環境保護の活動を推進する。
- ② 地域・PTA と連携した二子玉川クリーンタウン作戦やベルマーク・牛乳パック・ペットボトルキャップの回収活動をとおして、資源や環境の保護等についての関心を深めさせる教育活動を推進する。
- ③ 縦割り班活動・集会活動等の異学年交流や、近隣学年、異学年との合同授業を重視し、高学年の児童は自覚を高め、リーダーとしての責任をもち、低・中学年は、相手の立場を考え、協力し合って活動する楽しさを味わわせる。

(2) 美しい日本語を世田谷の学校から

- ① 教科「日本語」の学習を通して、美しい言葉の語感や深みに触れさせる。
- ② 「あいさつ」や「言葉遣い」についてのふり返しカードを活用し、進んであいさつができるようにし、言葉の大切さに気付き、よりよい人間関係を構築する。
- ③ 学期ごとに2週間、読書週間を設定し、美しい言葉や表現に触れる機会を多く取り入れる。

(3) 学校間連携活動

- ① 瀬田中学校での授業見学、部活動見学、説明会を通して、中学校生活への期待と意欲を持たせる。
- ② 区内の愛鳥モデル校と連携した、探鳥会を実施し、探鳥活動をしたり、報告会でそれぞれの学校の報告をしたりして、交流を深める。
- ③ 近隣の小・中学校との情報交換を密にし、交流活動を推進し、合同学校協議会であいさつ運動に取り組む。

5 ホームページアドレス

<http://school.setagaya.ed.jp/fuga/>

III 自己評価の報告

1 本校の重点目標の評価

各目標ともおおむね肯定的な評価を得た。評価の結果から、以下の通り改善についての方策をまとめた。

(1) 学校から地域・保護者への積極的な情報発信について

- ・7月にホームページを随時更新できるシステムにしたため、関係者アンケートでは、ホームページを55.9%が見たと答えている。「学校だより、学年だよりなどを通して、本校の教育のねらいや計画、成果などを知らせていると思いますか」についての肯定的評価は93%であった。そこで、ホームページの紹介を学校だより等でも行い、常に新しい情報を提供できるようにしていく。

(2) 子どもに一つでも多くの自信をもたせる取り組みについて

- ・関係者アンケートでは、「あいさつがよくできている」との回答が65%と目標の80%に届かなかった。今年度は、校門での校長によるあいさつ、学校公開時の代表委員会によるあいさつ等、校門でのあいさつに力を入れてきた。今後は、校舎内でもあいさつが日常化できるよう工夫、実施していく。
- ・得意なこと、自信をもてるようになったことのアンケートを児童に行い、自己肯定感を高めた。次年度も自信をもたせる教育活動を工夫、実施していく。

(3) 学校施設の安全性の確保と改善について

- ・今年度は、怪我で入院する事故が発生してしまった。そのため、安全点検方法を強化し、早期対応をしてきた。
- ・施設の老朽化もあるが、今後も安全点検と危険箇所に対する早期対応を進めていく。

(4) 教員の指導力の向上について

- ・教員は、管理職による年3回の授業観察、教員同士の授業公開、研究授業等を通して指導力の向上を図っているが、児童や保護者には、その姿が見えにくかった。指導力をさらに向上させるとともに、児童・保護者が評価しやすい視点を工夫していく。

2 地域とともに子どもを育てる教育の評価

おおむね肯定的な評価を得た。また、昨年度に比べ、肯定的評価が高まった。以下の対策をとっていくことにより、さらに地域とともに子どもを育てる教育の推進を図る。

- ・学校からの情報発信をさらに充実させ、子どもの成長の様子を地域の方々に伝える。
- ・読みやすい学校だよりを目指し、レイアウトや文字数を工夫する。
- ・ホームページの更新を全教員が行えるようにする。

3 未来を担う子どもを育てる教育の評価

おおむね肯定的な評価を得た。以下の対策をとっていくことにより、分かる・できる喜びが得られる教育を進めていく。

- ・教材教具を有効に活用し、一層の指導の工夫・改善を目指す。計画的に新規教材教具を購入し、教材教具の整備・充実を図る。
- ・生活指導上の情報収集につとめ、諸問題については、組織で対応していくようにする。
- ・総合的な学習の時間の全体計画を見直し、学習活動を一層充実させる。
- ・愛鳥活動についてのねらいを大切に、本校の特色ある教育として、豊かな心の育成を図る。

4 信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

校長のリーダーシップが高く評価されるなど、おおむね肯定的な評価を得た。以下の対策をとっていくことで、より確かな信頼が得られるよう推進する。

- ・ホームページ、正門掲示板の内容充実と更新頻度を高め、新しい情報を提供する。
- ・「あいさつの習慣」「得意なことを自覚させる」「相手を思いやる心を育む」等の指導を通して、児童に一つでも多くの自信をもたせる。
- ・安全点検を定期的に行い、学校施設の安全性の確保と改善に努める。
- ・教員の授業力向上を目指す意識を高め、自主研修会など指導力を身に付けるための研修の日常化・習慣化を図る。
- ・校務分掌のさらなる明確化、パソコンデータのフォルダリング、文書のファイルリングなどの整理を進め、さらに校務の効率化を図る。

5 教育環境の整備の評価

おおむね肯定的な評価を得た。以下の対策をとっていくことにより、児童にとって安心して生活できる環境づくりを進めていく。

- ・危険箇所の発見と改善について、積極的に区に要望するなどして、計画的に施設・設備の改善を図る。
- ・出納・情報管理については、明瞭明確な執行を続けていく。
- ・文書・情報管理については、これまで同様、事故のないよう周知徹底を図る。

6 数値目標の達成状況

(1) 各 教 科 等	本年度の 数値目標	①地域の人や保護者等、教育活動を支える教育ボランティアを延べ150人以上にし、授業や学校行事の内容の充実を図る。 ②関係者アンケートにおいて、児童の評価「授業の内容はよくわかる」80%以上を維持する。
	本年度の成 果と課題 ※学校の自己評 価や学校関係 者評価等の視	①達成できている。 ・関係者アンケートでは地域の人材の活用について地域の方の約80%が肯定的な評価をしている。 ・保護者からは、英語や外国の人と関わる体験を増やして欲しいという要望が多い。 ②達成できている。 ・アンケートの結果は5年生84.2%・6年生88.

	点も含む	<p>3%が肯定的評価をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の「子どもにとってわかりやすい授業をしている」の肯定的評価は5年が83.8%（昨年度の4年は72.8%）、6年が76.2%（昨年度の5年は71.4%）であった。全校では肯定的評価が80.7%（昨年度は74.5%）で、昨年度よりはいずれも数値は高くなっている。 ・この評価を堅持するため、今後とも指導法の研鑽を行い、落ち着いた学習環境を整え、より分かりやすい授業を行い、学力の向上に努める。
(2)	生活指導・キャリア教育・食育	<p>○「あいさつがよくできている」の関係者アンケートの項目について、肯定的評価が60%を超えるようにする。</p>
	<p>本年度の成果と課題</p> <p>※学校の自己評価や学校関係者評価等の視点も含む</p>	<p>○達成できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者アンケートでは64.9%が肯定的評価である。 ・1年生では70%以上が肯定的評価であるが、学年があがるにしたがって下がっている。全体的には昨年度よりは肯定的な評価が増えている。保護者からは校内ではあいさつをするが、学校の外では不十分であるとの声もある。不審者対策などで不用意に関わりをもたないようにするという指導もあり、判断が校内のみか生活全般かによってもこの数字は変動すると思われ、評価が難しいところである。 ・あいさつや言葉遣いの大切さを指導することについては、保護者や地域からの要望が強い。学校近くの商店街をはじめとする地域の方々はよく児童に声をかけ、あいさつをしてくださっている。
(3)	特色ある教育活動	<p>○地域との連携の機会を各学年2回以上・愛鳥活動を各学年3回以上行い、関係者アンケートでの「地域活動や行事によく協力している」「愛鳥活動」についての肯定的な評価70%以上を維持する。</p>
	<p>本年度の成果と課題</p> <p>※学校の自己評価や学校関係者評価等の視点も含む</p>	<p>○達成できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者アンケートでは肯定的評価が84.6%である。 ・1、2年生は地域のお年寄りの会の方に昔遊びを教えていただき、給食の交流も実施した。また、花みず木フェスティバルへの参加(5年)や紙すき体験(2年)も定着している。 ・3年生以上の児童は、クリーンタウン作戦に参加し、地域の方と共に活動した。一緒に活動している地域の方々からは感謝と継続を望まれている。 ・愛鳥モデル校としての活動が定着しており、児童は楽しんで愛鳥活動を行い、鳥の名前や特徴を覚えて、鳥の住む環境について関心をもっている。また、全員が『ことり文集』を書き、愛鳥活動への思いを綴っている。

